

ションツールとしての有用性」，招請講演者・大会プログラム実行委員の親睦会，本学医学部学生の医学部管弦楽団による四重奏，恒例の会員懇親会なども企画された。参加者は有料入場者：963

名（一般：790名，研修医：9名，学生・模擬患者等：164名）で，招請者72名を含め1,035名であった。

4. 第45回日本医学教育学会大会

田邊 政裕（千葉大学）

第45回日本医学教育学会大会は，2013（平成25）年7月26日・27日，千葉大学亥鼻キャンパスにて，大会長横須賀収医学研究院長，名誉大会長斎藤康学長のもと開催された。千葉市中心部の丘陵部にある千葉大学亥鼻キャンパスの医学部，薬学部，看護学部の講堂，講義室等を会場として利用した。

医療の質保証と共に医学教育の質保証に対するニーズも高まっており，今大会のテーマを「Quality assurance of medical education - 学習成果基盤型教育の導入と展開 -」とした。学習成果基盤型教育（outcome-based education：OBE）は，学習のプロセスよりも学習成果（アウトカム）を重視する教育で，従来の医学教育と比較して教育に対する説明責任（アカウンタビリティ）がより明確になる。

日本医学教育学会の各委員会にテーマに沿った企画をしていただき，5シンポジウム，11パネル・ディスカッション，1コンgress・ワーク

ショップ，3モーニング・セミナーを実施した。いずれのセッションもテーマと関連する一貫性のある内容となり，参加者から高い評価をいただいた（大会の主旨に沿ってセッションごとに参加者による評価を実施した）。大会前日（7月25日）には4プレ・congress・ワークショップを開催し，終了後（7月28日）には千葉大学クリニカル・スキルズ・センター見学会，45周年記念公開シンポジウムが行われた。

演題数は一般演題394題（口演216題，ポスター144題，学生セッションポスター24題，国際ショナルセッション10題），シンポジウム・パネル・ディスカッション等56題，講演（大会長講演1題，日韓医学教育学会交流招請講演1題，海外招請講演2題，市民公開講演1題）5題，計455題，参加者数は有料入場者937名（一般778名，研修医9名，学生・その他150名），招待者48名，計985名であった。参加者がほぼ1,000人規模の大会として定着した感がある。